

2月13日(土)
第23回

埼玉市民ジャーナリズム講座
戦後70年・地域とメディア

つながるつなげるフェスタ
& 埼玉・市民ジャーナリズム講座 3周年開講

政治とメディア

～中立公正という『神話』を問う～

報道とは中立公正で客観的でなければならない、という「神話」のような誤解があります。しかし、中立をつきつめると無味無臭のただの情報提供になってしまいます。今回の講座はジャーナリストの斎藤貴男さんお招きし、メディアの役割についてあらためて考えます。関心のある方ならどなたでも参加できます。

日 時: 2016年2月13日(土) 14時00分～

ゲスト: 斎藤貴男さん ジャーナリスト

会 場: さいたま市民会館うらわ

7階会議室 浦和駅西口 徒歩10分

参加費: 500円



ゲ ス ト



斎藤貴男さん

●1958年東京都生まれ。早稲田大学商学部卒業。イギリス・バーミンガム大学修士(国際学MA)。日本工業新聞記者、『プレジデント』編集部、『週刊文春』記者などを経てフリー。主な著書に『機会不平等』(文春文庫)『東京電力』研究 排除の系譜』(角川文庫)『ルポ改憲潮流』(岩波新書)『戦争のできる国へ—安倍政権の正体』(朝日新書)『子宮頸がんワクチン事件』(集英社)『ジャーナリストという仕事』(岩波ジュニア新書)『「マイナンバー」が日本を壊す』(集英社、2月下旬発売)『民意のつくられかた』(岩波新書)など。ユニークな視点と確かな取材で、現代国家、社会の病理に鋭く切り込んでいる。

埼玉・市民ジャーナリズム講座

埼玉県には古くから独自の歴史と文化があります。この埼玉がより一層活性化、発展するために、地域に根ざした多様で「市民に開かれたメディア」の存在と活躍が不可欠です。今一度、多くのみなさんと、ジャーナリズム、メディアリテラシー、地域文化の育成などの課題を、この『埼玉・市民ジャーナリズム講座』の場を通じて共に考え、情報発信していきたいと考えています。この企画は地元・地方紙「埼玉新聞」の紙面協力のもと2014年3月から取り組んでいます。

コーディネーター



門奈直樹さん

立教大学名誉教授。専門は、ジャーナリズム、マスコミュニケーション論、危機管理とマスメディア。とくにイギリスのメディア研究、放送制度、メディア政策。著書に『ジャーナリズムは再生できるか』(岩波現代全書 2014年)など。埼玉新聞サポーターズクラブ(SSC)代表。所沢市在住。

■主催団体: 埼玉市民ジャーナリズム講座実行委員会
埼玉新聞サポーターズクラブ 日本機関紙協会埼玉県本部 NPO法人埼玉情報センター さきたま新聞
■連絡先 090-0217-3259 (武内) office@sai-tama.jp

埼玉・市民ジャーナリズム講座 2015年3月～2016年3月 講座一覧

	日時	テーマ	ゲスト	会場
13	3月 8日	ジャーナリズム・メディアの再生 ～戦後70年・未来への課題～	むのたけじ氏	埼玉トヨペット
14	4月 11日	戦取材とは	元朝日新聞記者 井川一久氏	さいたま市市民 活動サポセン
15	5月 9日	地域から市民のジャーナリズムは	埼玉新聞タウン記者 栗原和江氏・比企ネット ワーク代表 石井 碩行氏	さいたま市市民 活動サポセン
16	6月 13日	沖縄から見た日本 -本土メディアは今、沖縄を	琉球新報東京支社 仲村良太氏	埼玉会館
17	7月 11日	変貌する政治家たち -安保法制と政治の行方	元共同通信編集委員 栗原猛氏	常盤公民館
18	8月 8日	いま、語りつぐこと -誌と戦争	詩人 さいたま文芸 家集団副代表 中原 道夫氏	さいたま市市民 活動サポセン
19	10月 10日	ジャーナリズムのこれから ～市民活動がメディアを支える～	東京新聞読者応援室 長 鈴木賀津彦	さいたま市市民 活動サポセン
20	11月 14日	主要メディアの危うさ ～今こそ市民ジャーナリストの育成を～	NPO 法人アジア障害 者教育協会理事長 青木陽子氏	さいたま市市民 活動サポセン
21	12月 12日	女性が、市民が変えるジャーナリズム ～女性とメディア」の現場から～	フリーライター・編集 者池田恵美子氏	武蔵浦和コミセ ン
22	1月 9日	女性とシニアが情報発信 ～埼玉新聞タウン記者の取り組み～	埼玉新聞社編集局長 代理 吉田俊一氏	武蔵浦和コミセ ン
23	2月 13日	政治とメディア ～中立公平という『神話』を問う～	ジャーナリスト 斎藤貴男氏	市民会館うらわ 7階会議室
24	3月 12日	未定	交渉中	下落合コミセン

2016年度も毎月第2土曜日の午後に開催いたします。